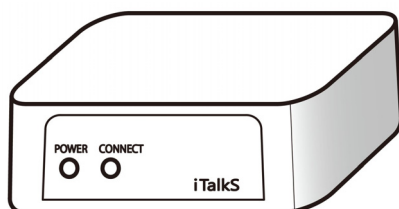


iTalkS(アイトーク・エス)

製品型番：TTR-ADPT3

取 扱 説 明 書



このたびは iTalkS をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をお読み下さい。
本説明書を見ないと操作方法が分からない機能がありますので、
お読みになった後は大切に保管してください。

目次

1	使用上の注意	1
2	使用前の準備	2
2.1	AC アダプタと電話機の接続	2
2.2	前面パネルのインジケータについて	2
2.3	ナンバーディスプレイの設定	2
2.4	携帯電話の設置場所について	2
2.5	Bluetooth デバイス名の変更	3
2.6	Bluetooth 機器の登録（ペアリング）と接続	3
2.7	市外局番の設定	5
2.8	特定の番号への発信の許可・禁止の設定	5
2.9	特定の番号からの着信の許可・禁止の設定	5
2.10	プレフィックス番号の設定	5
2.11	通話時間制限の設定	5
2.12	音量・音質の調整	6
2.13	Bluetooth の電波干渉について	6
2.14	本製品を複数台同時運用する場合の注意	6
3	通常的使用方法	7
3.1	着信	7
3.2	発信	7
3.3	携帯電話の再発信規制について	7
3.4	携帯電話本体で発着信する場合の注意	8
3.5	音声入出力先の切り替えについて	8
3.6	Bluetooth の切断	8
3.7	Bluetooth の接続	9
3.8	特殊番号	10
3.9	パスワード	10
3.10	スマートフォンの音声アシスタントについて	10
4	エコーキャンセラ機能	11
4.1	エコーキャンセラ 方式（1）	11
4.2	エコーキャンセラ 方式（2）	11
5	付加機能	12
5.1	スマートフォンの音声アシスタント操作機能	12
5.2	自動発信機能	12
5.3	短縮ダイヤル機能	12
5.4	通話アプリ・音声バス切り替え機能	13
5.5	その他の機能	15

6	設定モード	17
6.1	受話・送話音量の設定	17
6.2	ノイズ低減	17
6.3	エコーキャンセラ 方式（１）の設定	18
6.4	エコーキャンセラ 方式（２）の設定	18
6.5	極性設定	18
6.6	ナンバーディスプレイ	18
6.7	ダイヤル桁間タイマ	18
6.8	発着信許可	19
6.9	市外局番自動付加	19
6.10	発信番号プレフィックス	19
6.11	自動発信	19
6.12	短縮ダイヤル	19
6.13	Bluetooth 音声パス切り替え制御	20
6.14	Bluetooth デバイス名の変更	20
6.15	Bluetooth 接続受付許可	20
6.16	Bluetooth 自動接続	20
6.17	Bluetooth のペアリングと接続	20
6.18	Bluetooth の接続	20
6.19	Bluetooth の切断	20
6.20	Bluetooth ペアリングの解除	20
6.21	発信制限（既定番号）	21
6.22	発信制限・着信制限（個別番号）	22
6.23	着信制限	22
6.24	通話時間制限（通知音）	23
6.25	通話時間制限（強制切断）	23
6.26	音声アシスタント操作機能	23
6.27	通話アプリ・音声パス切り替え機能	23
6.28	再起動	24
6.29	設定初期化	24
6.30	特殊番号	24
6.31	パスワード	24
6.32	バージョン番号	24
7	仕様	25
8	保証	25

1 使用上の注意

iTalkS（以下「本製品」）は、携帯電話と無線(Bluetooth)接続・固定電話と有線(電話線)接続し、固定電話の操作により携帯電話回線での発着信および音声通話を実現するものです。

本来の用途以外のご使用はしないでください。

本製品は空調管理された室内での設置・使用・保管を想定しています。

下記のような場所には設置・使用・保管をしないでください。

- ・極端に高温になる場所（直射日光の当たる場所や熱源の近くなど）
- ・極端に低温になる場所
- ・湿度の高い場所（風呂場や加湿器のそば・風雨の当たる場所など）
- ・不安定な場所
- ・極端に振動が激しい場所
- ・強い磁界・電界が存在する場所（電子レンジ・家庭用コードレスホンや無線機器・IH 調理機器等の近くなど）
- ・空気の汚れが多い場所（ほこりや油飛びなど）
- ・気化した薬品や可燃性ガスなどが充満した場所

また、下記の使用方法に従ってください。

- ・使用前の準備・通常的使用方法については、本取扱説明書をよく読み、記載内容に従ってください。
- ・付属の AC アダプタ以外は使用しないで下さい。
- ・家庭用 AC100V 電源以外では使用しないで下さい。
- ・AC アダプタの本体・ケーブル・コネクタが破損している場合には使用を中止し、販売元に修理または交換を依頼してください。
- ・発煙や異臭がする際にはすぐに AC アダプタ・全てのコネクタを抜き、使用を中止して下さい。
- ・水が装置内部に入った場合、すぐに AC アダプタ・全てのコネクタを抜き、使用を中止して下さい。
- ・濡れた手で本体やコネクタに触らないで下さい。
- ・コネクタの端子に触ったり、導電性異物や薬品を付着させたりしないで下さい。
- ・雷が激しい時は、AC アダプタをコンセントから抜いて下さい。
- ・高い場所から落下させないで下さい。
- ・分解・改造・ハンダ付けなどをしないでください。

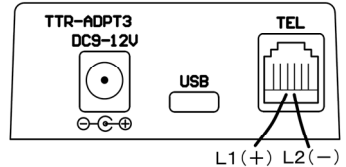
免責事項：

- ・本製品の故障、誤動作、不具合あるいは災害・事故などの外部要因によって通話の機会を逸したため生じた損害などについて、当方は一切の責任を負いかねます。
- ・本製品の不具合・その他過失などによって生じた通話時間超過などによる金銭的・その他の損害などについて、当方は一切の責任を負いかねます。
- ・本製品の故障等による物損事故（接続した携帯電話・固定電話等や周辺の品物が連鎖的に故障した場合など）には、本製品の保証期間であっても、本製品およびその付属品以外については、当方は一切その責任を負いかねます。
- ・本製品の故障等による人身事故につきましては、当方は一切その責任を負いかねます。
- ・本製品は全ての Bluetooth 対応携帯電話との接続動作を確認したものではありません。そのため、全ての Bluetooth 携帯電話との接続・動作を保証するものではありません。
- ・Bluetooth は無線接続のため、周囲の電波状況その他の条件により、接続が切れる可能性があります。接続が切れることが許されない用途には使用しないでください。

2 使用前の準備

2.1 AC アダプタと電話機の接続

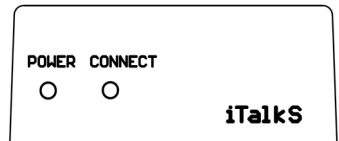
以下の手順で本製品背面(右図)の各端子に接続して下さい。



- 1) **TEL 端子**：固定電話やビジネスホンのアナログ外線端子（入力）と接続してください。
 接続には市販の電話線（モジュラーケーブル）を使用してください（本製品には付属していません）。
※この端子は出力端子です。ビジネスホンの内線端子（出力）や光ルーター等の TEL 端子（出力）とは絶対に誤接続しないよう、十分に確認してください。（本製品が故障します）。
 ビジネスホン主装置のアナログ端子等、極性がある場合は L1, L2 を図の通り接続してください。
 配線の都合で逆の接続になる場合には、本製品の極性設定（6.5 節）を使用して下さい。
- 2) **DC9-12V 端子**：付属の AC アダプタの DC プラグを接続してください。
 また、付属の AC アダプタの AC プラグをコンセント（AC100V）に差し込んで下さい。
- 3) **USB 端子**：将来のファームウェア更新専用（PC との接続用）です。
 通常の使用時は何も接続しないでください。
（携帯電話（スマートフォン）との通信・充電には使用できませんので、接続しないでください）。

2.2 前面パネルのインジケータについて

前面パネル(右図)のインジケータ (LED) の意味は以下の通りです。



POWER（赤色）：電源ランプです。本製品に電源が供給されている間、点灯します。
CONNECT（緑色）：携帯電話の接続状態を示します。各点灯状態は以下の通りです。
 消灯：携帯電話との Bluetooth 接続が切れており、通話できない状態。
 点灯：携帯電話と Bluetooth 接続されており、通話可能な状態。
 点滅：ペアリング中または接続処理中。

2.3 ナンバーディスプレイの設定

ナンバーディスプレイ機能（3.1 節、6.6 節参照）の有効／無効を設定して下さい。
 有効にすると着信時に発信元の電話番号を表示可能です。（ナンバーディスプレイ有効時は、着信にかかる時間が数秒長くなります。）
 接続した固定電話にナンバーディスプレイ機能が無い場合には、この設定は必ず無効にして下さい。
※誤って有効にすると着信が正常に動作しない場合があります。
初期設定では有効になっています。

2.4 携帯電話の設置場所について

携帯電話を金属製の台の上に直置きするなど、金属と接して設置した場合には電波感度が低下し、通話が安定しない場合があります。
 使用中に携帯電話画面のアンテナ本数が少ない場合には、金属から離して設置する・設置場所を移動するなどして、アンテナ本数が多い状態で使用して下さい。

2.5 Bluetooth デバイス名の変更

本製品を携帯電話に登録・接続する際には「Bluetooth デバイス名」を使用します。

デバイス名は初期設定では「TTR-ADPT3」ですが、「TTR-ADPT3 (01)」～「TTR-ADPT3 (99)」に変更することができます。(6.14 節参照)。

本製品を複数台使用する際など、個体を識別したい場合に使用してください。

2.6 Bluetooth 機器の登録（ペアリング）と接続

以下の手順に従って Bluetooth 機器（携帯電話）の登録（ペアリング）を行ってください。

この際、本製品と携帯電話との距離が 50cm 以内の状態で行ってください（通常の使用時より近づける必要があります）。

- 1) 固定電話の受話器を上げて、「ツー」または「プー・プー」という発信音を確認してください。
そして「**8 1**」を入力してください。（1 番に登録します。最大 5 台まで登録でき、2 番～5 番に登録するには「8 2」～「8 5」を入力して下さい。
受話器から「接続中…」のアナウンスが流れるので、そのまま受話器を上げておいてください。

- 2) 携帯電話から、本製品の検索を行って下さい。操作方法は以下の通りです。

・ iPhone の場合 :

「設定」／「設定」－「一般」の「Bluetooth」設定画面にて Bluetooth をオンにして、設定画面を表示したままにしておいてください。

「その他のデバイス」のところに「TTR-ADPT3」の名称が表示されたら、検索完了です。

※本製品と再度ペアリングを行う場合、必ず一旦「登録を解除」を行ってください(Bluetooth 設定画面の TTR-ADPT3 の右側の「⓪」アイコンから行えます。)

・ Android スマホ (AndroidOS 9 以上) の場合 :

「設定」－「機器接続」－「新しい機器とペア設定する」を選んで、画面を表示したままにしておいて下さい。(機種によっては「更新」「機器の検索」「検索」や検出アイコンなどを選ぶ必要があります)。

「使用可能な機器」のところに「TTR-ADPT3」の名称が表示されたら、検索完了です。

※本製品と再度ペアリングを行う場合、必ず一旦「以前接続されていた機器」の「TTR-ADPT3」を削除してください(「TTR-ADPT3」の右側の歯車アイコンから行えます。)

・ Android スマホ (上記より古い) の場合 :

「設定」－「無線とネットワーク」などの「Bluetooth」設定画面にて Bluetooth をオンにしてください。そして、「機器の検索」や検出アイコンをタップするか、メニューの「検索」を選んでください。

「使用可能な機器」のところに「TTR-ADPT3」の名称が表示されたら、検索完了です。

・ フィーチャーフォン (Android OS 搭載) の場合 :

「設定」の「Bluetooth」設定画面にて Bluetooth をオンにしてください。そして、メニューから「更新」を選んでください。

「使用可能なデバイス」のところに「TTR-ADPT3」の名称が表示されたら、検索完了です。

・ フィーチャーフォン (3G ケータイなど、Android OS 非搭載) の場合 :

「メニュー」より、「LifeKit」－「Bluetooth」や「便利ツール」－「Bluetooth」などにある、「機器リスト」から「検索」「サーチ」などのメニューを選択して下さい。

「TTR-ADPT3」の名称が表示されたら、検索完了です。

※検出が成功するまで数回繰り返し操作が必要な場合があります。

3) 検出された「TTR-ADPT3」に対してペア設定・登録・接続操作をしてください。操作方法は以下の通りです。

・ iPhone の場合 :

・ Android スマホの場合 :

検索された「TTR-ADPT3」をタップしてください。

・ フィーチャーフォン(Android OS 搭載)の場合 :

検索された「TTR-ADPT3」を選択してください。

・ フィーチャーフォン(3G ケータイなど、Android OS 非搭載)の場合 :

検索された「TTR-ADPT3」に対して「登録」「接続」などの操作を行って下さい。

※携帯電話にペア設定・認証・接続するかどうかのメッセージが表示された場合には許可して下さい。

(連絡先・通話履歴へのアクセスは許可する必要はありません。)

※携帯電話に Bluetooth パスキー (PIN) 入力画面が現れた場合には「0000」を入力して下さい。

※フィーチャーフォンの場合、端末暗証番号を入力する画面が現れた場合には、携帯電話本体の暗証番号を入力して下さい。(上記の Bluetooth パスキーとは異なります)。

4) 携帯電話の種類により、さらに接続操作が必要な場合があります。

- ・ フィーチャーフォン(Android OS 非搭載)の場合、「TTR-ADPT3」に対して接続操作をしてください。
- ・ それ以外の携帯電話では、ほとんどの場合、前項の機器の登録・認証をすると自動的に接続されます。

5) 受話器から「接続しました」と流れ、「ツー」に変わればペアリングおよび接続は完了です。

また、フロントパネルの CONNECT (緑色) ランプが点灯に変わります。

ペアリング・接続作業を中止するには : 受話器を置いて下さい。

携帯電話が本製品 (TTR-ADPT3) を検出できない場合 :

- ・ 携帯電話の種類によっては、既に「TTR-ADPT3」が登録されていると新規機器登録メニューで検出・検索できない場合があります。一旦機器リストにて登録を削除(解除)してから、再度検出・検索を行ってください。(詳しくは携帯電話の取扱説明書にて「Bluetooth 機器の登録解除」などを参照してください)。
- ・ 携帯電話の Bluetooth 機能をオフ・オンしたり、再起動してみてください。
- ・ 周囲に別の Bluetooth 機器がある場合は、電源をオフにするか、Bluetooth 機能をオフにしてみてください。
- ・ 本製品の初期化 (6. 29 節) を行ってみてください(各種設定もリセットされます)。

一度ペアリングを行えば、次回からは必要ありません。(初期設定では、接続が切れても自動的に再接続します (3. 7 節①)。自動で接続しない場合には、手動で Bluetooth の接続 (3. 7 節②～)、切断 (3. 6 節) を行うことができます)。

電源が切れても、ペアリング情報は保存されています。ペアリングの解除 (6. 20 節)、本製品の設定初期化 (6. 29 節) を行った場合にはペアリング情報が消去されます。

2.7 市外局番の設定

市外局番の無い電話番号をダイヤルした際、自動的に市外局番を付けて発信することができます。電話機を設置する地域の市外局番を設定すると(6.9 節参照)、固定電話と同様に市外局番無しで発信できます。

市外局番を付加するのは1～9 で始まる4桁以上の電話番号へ発信する場合です。

2.8 特定の番号への発信の許可・禁止の設定

特定の番号への発信の許可／禁止を設定できます。

- ・あらかじめ定めてある電話番号に対する発信を許可／禁止するには6.21 節を参照してください。**初期設定でも、いくつかの番号(例：各社プレフィックスの 00XY 番号)は発信禁止に設定されていますので、確認してください。**
- ・上記以外の指定した電話番号への発信を許可／禁止したい場合は6.22 節に従い設定して下さい。

以下の用途を想定しています。

- ・各携帯電話会社の音声通話定額プランの対象外(有料)となる可能性のある電話番号への発信を禁止
- ・指定した電話番号(最大10 個)のみに発信可能とする

2.9 特定の番号からの着信の許可・禁止の設定

特定の番号からの着信の許可／禁止を設定できます。(設定方法は6.23 節、6.22 節参照)。

登録した電話番号や非通知からの着信に対して、着信拒否または無視ができます。

拒否実行の場合でも携帯電話は少しの間呼び出されますので、必要に応じて着信音を消してください。

以下の設定が可能です。

- ・指定した電話番号(最大10 個)からの着信を拒否する
- ・登録した電話番号(最大10 個)のみから着信を受け付ける(登録していない番号は拒否する)

2.10 プレフィックス番号の設定

MVNO の通話定額プラン(専用アプリを使用するもの)などを本製品からの発信に適用するためには、電話番号の前にプレフィックス番号を付けて発信する必要があります。(プレフィックス番号はサービス毎に異なります。各サービス会社にお問い合わせ下さい。)

プレフィックス番号を設定すると(6.10 節参照)、ダイヤルした番号の先頭に設定した番号を付けて発信します。

2.11 通話時間制限の設定

通話定額プランに時間制限がある場合など、通話時間を制限したい場合に下記の動作を設定することができます。(発信通話に対して動作します。着信通話には適用されません)。

- ・通話開始後、設定した時間に達すると受話器から「ブブブ... ブブブ...」という音で通知するように設定できます。(6.24 節参照)
- ・通話開始後、設定した時間に達すると強制的に通話を切断するように設定できます。(6.25 節参照)

※設定を誤ると、定額料金を超えて通話する可能性があります。また、通話回数・月額通話時間・通話料金の制限には対応していません。ご自身の通話定額プランの内容や本機能についてよく理解・確認してから使用して下さい。

2.12 音量・音質の調整

実際に通話を行い、音量や音質の調整を行ってください。

この際、発信元の受話器と通話先の受話器を近づけて通話を行うと、両方のマイクに音声と同時に入り正しいテストができない場合がありますので、別の場所（部屋）にある通話先電話機と通話を行うようにしてください。

主な調整項目は、受話音量・送話音量（6.1 節参照）とエコーキャンセラ（4 章参照）です。本製品の音量ではなく、本製品に接続する電話機の音量を調整すると良い結果になる場合があります。

設定の変更は、一旦通話を終了し、設定モード（6 章参照）にて行う必要があります。音質が重視される用途の場合、実際の運用状態（設置場所・使用機器・様々な通話先電話機などの条件）にて、十分なテストを行ってください。

※家庭用電話機（無線子機付き）の親機アンテナに本製品や電話線を近づけると通話にノイズが入る場合がありますので、離して設置してください。

2.13 Bluetooth の電波干渉について

本製品で携帯電話との接続に使用する Bluetooth は 2.4GHz 帯の無線通信です。

以下のような機器は、同じ周波数帯の電波を使用します。

- ・他の Bluetooth 機器（Bluetooth を使用したマウス・キーボード・ヘッドホン・スピーカーなど）
- ・無線 LAN (Wi-Fi)
- ・電子レンジ

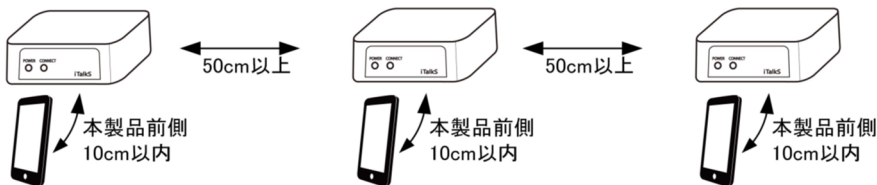
上記の機器が本製品の近くに多数あると電波干渉が発生し、通話の音質悪化（ノイズ発生や音声途切れ）や Bluetooth 接続切れが発生する場合があります。

そのような場合には、上記のような無線機器との距離を離すなど、対策を実施して下さい。

2.14 本製品を複数台同時運用する場合の注意

本製品を複数台、狭い範囲に密集して（およそ 1m 四方の範囲に 5 セット以上）設置する場合には、運用前に十分に音質の確認をしてください。（実際に**全セットで同時に通話**を行ってください）。

電波干渉が原因の音質悪化（「プチ・プチ」というノイズ発生や音声途切れ）や Bluetooth 接続切れが発生した場合には下図のような設置方法になるようにしてください。



以下が設置方法のポイントです。

- ・携帯電話は本製品前側の 10cm 以内に設置する（本製品の Bluetooth アンテナは前側中央にあります）。本製品の上に置くと、回路に近すぎてノイズが入る場合がありますのでご注意ください。
- ・本製品間の距離は 50cm 以上離す。前後左右だけでスペースが足りない場合は棚を使用して上下方向に 50cm 以上離す。50cm 離しても音質が改善しない場合には 1m 以上離す。
- ・できるだけ金属製ではない台・棚を使用する。金属製の場合、板ではなくメッシュを使用する。
- ・金属製の台・棚を使用する場合は、樹脂製のスタンドなどを使用して金属から 10cm 以上離す。

3 通常の使用方法

3.1 着信

携帯電話に着信があると接続した固定電話の呼び出し音が鳴ります。

本製品に接続した固定電話がナンバーディスプレイ対応で、かつ本製品のナンバーディスプレイ機能がオンに設定してあり（6.6 節参照）、かつ発信元が番号通知を有効にしている場合、発信元の電話番号が固定電話に表示されます。

受話器を上げると通話を開始します。受話器を置くと通話が終了します。

携帯電話本体の着信音については、以下の通りとなります。

- 1) スマートフォンの場合：携帯電話の着信音量の設定により、鳴らす／鳴らさないが選択可能です。
- 2) フィーチャーフォン(Android OS 搭載)の場合：携帯電話の着信音量の設定により、鳴らす／鳴らさないが選択可能です。
- 3) フィーチャーフォン(上記以外)の場合：携帯電話の初期設定では鳴りません。次の設定がある機種は、鳴らすことができます。

Bluetooth メニューの中にて、まず「Bluetooth オフ」にし、次に「Bluetooth 設定」にて「着信音送出設定」がある機種は、「送らない」に設定すると、携帯電話本体から着信音が鳴るようになります。設定が終わったら「Bluetooth オン」にしてください。

3.2 発信

固定電話の受話器を上げて、受話器から「ツー」という音がするのを確認します。

（この際、「プー・プー…」という高い音程の断続音が聞こえたら、携帯電話と Bluetooth の接続ができていません。Bluetooth 機器の登録と接続(2.6 節)の操作が完了しているかを確認してください。）

次に、固定電話で電話番号を入力します。しばらく経つと自動的に発信します。（番号入力終了から発信までの時間は設定できます。6.7 節参照）。

プッシュホンの場合、電話番号の最後に「#」を入力するとすぐに発信します。（10 桁(固定電話)、11 桁(携帯電話)の電話番号の場合は、「#」を入力しなくてもすぐに発信します）。

発信操作の後、受話器から以下のアナウンスが流れて発信できない場合があります。

- ・「発信規制です」：同じ番号に何度か連続して発信し、通話できなかった場合。（3.3 節参照）
- ・「発信制限です」：本製品の発信制限機能に該当する番号に発信した場合。（6.21 節、6.22 節参照）

また、以下の操作にて、携帯電話本体の操作により発信後、固定電話で通話することもできます。

固定電話の受話器を上げた後、携帯電話本体で発信操作をしてください。受話器からの音が「ツー」から発信中の音に変わり、以後は通常の発信と同じです。

3.3 携帯電話の再発信規制について

同じ番号に連続して発信して相手が応答しないことが何度か続いた場合、発信できなくなる場合があります。これは、自動装置による頻繁な再発信を規制する携帯電話会社側の仕組みです。

この規制がかかった場合、発信時に受話器から「発信規制です」とアナウンスが流れます。

発信規制を解除する方法は以下の通りです。

- ・しばらく時間をあけてから（数分かかる場合もあります）、再度発信する
- ・携帯電話を再起動する

発信規制時にも別の電話番号には発信可能です。

また、携帯電話本体の操作による発信は可能です。

3.4 携帯電話本体で発着信する場合の注意

携帯電話本体で発信や着信の操作をした際に携帯電話本体から音声が出ない場合には、携帯電話を操作して、音声出力先を Bluetooth (TTR-ADPT3) から携帯電話本体に切り替えてください。(スマホの場合は電話/iPhone/Bluetooth アイコンの表示にて、ガラケーの場合はサブメニューなどにて)。

また、毎回切り替えるのが面倒な場合 6.27 節の設定を「携帯電話本体でも電話の通話をする」に設定すると携帯電話本体での発着信時に、通話出力先が本製品に切り替わらなくなります。

合わせて、5.4 章「通話アプリ・音声パス切り替え機能」も参照してください。

3.5 音声入出力先の切り替えについて

・固定電話→携帯電話への切り替え：

本製品に接続した固定電話で通話中に、携帯電話本体での通話に切り替えるには、携帯電話を操作して音声出力先を Bluetooth (TTR-ADPT3) から携帯電話本体に切り替えてください。(スマホの場合：電話/iPhone/Bluetooth アイコンの表示、ガラケーの場合：サブメニューなどにて)。

この際、固定電話の受話器からは「ツー・ツー」音が鳴りますので、受話器を置いてください。

・携帯電話→固定電話への切り替え：

携帯電話本体での通話中に、本製品に接続した固定電話での通話に切り替えるには、まず固定電話の受話器を上げ（この際、受話器からは「ツー」音が流れます）、その後、携帯電話を操作して音声出力先を Bluetooth (TTR-ADPT3) に切り替えてください。

「ツー」音が消え、固定電話の受話器にて通話ができます。受話器を置くと通話が終了します。

※6.13 節の設定値を 2 にすると、受話器を上げるだけで切り替わります。

3.6 Bluetooth の切断

本製品での通話をしない場合には、以下のいずれかの手順で Bluetooth の接続を切断して下さい。

ただし、「常時自動接続 (6.16 節)」が有効になっていると切断しても自動的に再接続されます。

① 接続した固定電話の操作により切断する方法

・受話器を上げて「9」を入力します。

Bluetooth の切断が完了すると、受話器からの音が「ツー」から「プー・プー…」に変化します。

② 携帯電話の操作により切断する方法

携帯電話から本製品「TTR-ADPT3」を選び、「切断」の操作を行って下さい。(操作方法は携帯電話によって異なります。)

③ 自然に切断される場合

携帯電話の Bluetooth 機能をオフにした場合や、Bluetooth の電波が届かない場所に移動した場合など。

3.7 Bluetooth の接続

Bluetooth が切断された後、再度本製品を使用して固定電話で通話するには、携帯電話と Bluetooth で接続をする必要があります。

以下のいずれかの方法で接続できます。

※既に別の携帯電話と Bluetooth で接続をしている場合は、まずその携帯電話と切断 (3.6 節) を行ってから新たな携帯電話と接続を行ってください。

※接続をするには、ペアリング (2.6 節) をしておく必要があります。

① 常時自動接続の設定をする方法 **（可能な限り常時接続しておきたい場合）**

Bluetooth の接続が切れている間、本製品から常時接続を試みます。ペアリングが完了している携帯電話すべてに対し、順に接続を試みます。

そのため、何らかの理由により Bluetooth の接続が切れても、再度接続可能な状態・電波到達範囲に入ると、自動的に接続されます。

※「常時自動接続 (6.16 節、初期設定は有効)」の設定が必要です。

② 固定電話の受話器を上げて自動的に接続する方法 **（必要な場合のみ接続したい場合）**

受話器を上げると最後にペアリング操作または接続操作をした携帯電話 (機器番号 1～5 のいずれか 1 つ) に接続します。

受話器を上げると「ツ・ツー…… ツ・ツー……」の繰り返し音が鳴り、その後「接続中…」のアナウンスが流れます。

接続が完了すると「接続しました」とアナウンスの後「ツー」に変化します。

接続を中止するには、受話器を置いて下さい。

※「受話器上げ時に接続 (6.16 節、初期設定は無効)」の設定が必要です。

③ 固定電話の操作により接続する方法 **（接続する携帯電話を指定したい場合）**

受話器を上げた後、接続したい機器番号を (「1」～「5」) を入力して下さい。受話器から「接続中…」のアナウンスが流れます。

接続が完了すると「接続しました」とアナウンスの後「ツー」に変化します。

接続を中止するには、受話器を置いて下さい。

④ 携帯電話の操作により接続する方法 **（接続する携帯電話を指定したい場合）**

携帯電話から本製品 (名称は「TTR-ADPT3」) を選び、「接続」の操作を行って下さい。(操作方法は携帯電話によって異なります)。

※「Bluetooth 接続受付許可 (6.15 節、初期設定は有効)」が有効になっている必要があります。

3.8 特殊番号

本製品には Bluetooth のペアリング・接続・切断を行うための特殊な電話番号がありますが、2 種類の中から選択、もしくは無効を設定できます。(6.30 節参照)

無効にしても、設定モードの機能番号 (6.17、6.18 節、6.19 節参照) で実行可能です。

機能	特殊番号 (6.30 節の設定値=1)	特殊番号 (6.30 節の設定値=2)	設定モードの 機能番号
ペアリング・接続	81, 82, 83, 84, 85	81, 82, 83, 84, 85	338
接続	1, 2, 3, 4, 5	11, 22, 33, 44, 55	331
切断	9	99	339

3.9 パスワード

パスワード機能を使用すると以下の操作に制限をかけることができます。

不特定多数の人が使用する用途などにご利用下さい。

- 1) 設定モード (6 章) を行うためにはパスワードの入力が必要になります。
- 2) Bluetooth の接続・切断・ペアリング削除にはパスワードの入力が必要になります。

パスワードの設定・解除については 6.31 節を参照して下さい。

パスワードが設定されている場合、以下の Bluetooth 関連の操作は使用できません。

- ・番号「81」～「85」入力によるペアリング・接続
- ・番号「1」～「5」入力による接続
- ・番号「9」入力による切断

上記の操作を行うには、以下の手順に従って下さい。

- 1) 受話器を上げて「0000」を入力してください。
- 2) 「設定モードです。4桁の番号を入力して下さい」のアナウンスに従い、4桁のパスワードを入力してください。
- 3) アナウンスに従い以下の数字 (機能番号を入力して下さい)。
 - ・ペアリング・接続 機能番号「338」 (6.17 節参照)
 - ・接続 機能番号「331」 (6.18 節参照)
 - ・切断 機能番号「339」 (6.19 節参照)
 - ・ペアリングの解除 機能番号「330」 (6.20 節参照)
- 4) 「1桁の番号を入力して下さい」のアナウンスに従い、機器番号「1」から「5」を入力してください。

3.10 スマートフォンの音声アシスタントについて

iPhone の Siri や Android の Google アシスタントを携帯電話のホームボタン長押しなどで起動した際に、携帯電話本体の音声入出力 (マイク・スピーカー) が使用できない場合があります。

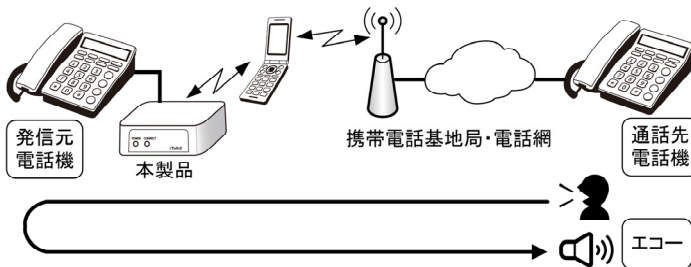
これは、音声入出力が Bluetooth ハンズフリー (本製品) に切り替わっているためです。

- ・6.27 節の「通話アプリ・音声パス切り替え機能」を「携帯電話本体でも電話の通話をする」に設定すると、音声入出力を携帯電話本体に戻すので、携帯電話本体で音声アシスタントが使用できます。
- ・6.27 節の「通話アプリ・音声パス切り替え機能」を「通話アプリを使用する」に設定すると、Bluetooth に切りかわった際に固定電話への着信で通知することができます。そして、受話器を上げて音声入出力が可能です。
- ・固定電話にて音声アシスタントの起動・音声入出力を行うには 5.1 節を参照してください。

4 エコーキャンセラ機能

2 線式の電話線を使用した電話システムでは原理上、エコー（自分が話した声が少し遅れて自分に聞こえる現象）が発生する場合があります。本製品には、エコーを軽減させる機能が搭載されています。本機能で軽減できるのは下図に示されている、通話先電話機にて聞こえるエコーです。発信元電話機にて聞こえるエコーには効果がありません。

必要に応じて、本製品のエコーキャンセラの調整を行って下さい。



4.1 エコーキャンセラ 方式（１）

発信元電話機からの出力にエコーが現れた際に、エコーを打ち消すような信号を加えて携帯電話回線側に送信することで、エコーを除去する方式です。

基本的には初期設定（機能有効）のままで使用して下さい。（6.3 節参照）

4.2 エコーキャンセラ 方式（２）

本製品からの送信音声（方式（１）にて取り切れなかった残留エコーを含む信号）が設定したしきい値を下回った場合、設定した割合で送信音声を小さくすることで、エコーを軽減します。

この方式には欠点もあり、エコーだけではなく発信元電話機の音声も小さくしてしまい、発信元→通話先方向の音声途切れが発生する場合があります。

エコーや音途切れが発生した場合には以下の調整を行ってください。（6.4 節参照）

注意事項は以下の通りです。

- 調整を行う際には、発信元電話機と通話先電話機を離して行い、また、発信元・通話先で同時に話しをせず、片方向の通話にて行って下さい。
- 発信元電話機の受信音量の設定を音割れしない範囲で大きくして下さい。そして、本製品の受信音量（機能番号 111）の設定を小さくして下さい。**
- 発信元電話機で送信音量の調節ができる場合には音割れしない範囲で大きくして下さい。そして、本製品の送信音量（機能番号 112）の設定を小さくして下さい。**
- 機能番号 172 の設定は初期値のままで、機能番号 173 の設定値を 1 ずつ大きくしていき、通話先電話機にてエコーが発生しない値を探して下さい。
エコー除去が十分で無い場合、機能番号 172 の値を 1 ずつ大きくし、機能番号 173 の値を再度小さい値に戻してから、1 ずつ大きくして探して下さい。
通常は初期値より 1～2 だけ大きい値の範囲にとどめてください（音途切れが発生します）。
- 上記の設定値で、通話先電話機にて音声の途切れが発生しないことを確認してください。音途切れが発生する場合には機能番号 173 の値を小さくするか、機能番号 172 の値を小さくしてください。
- エコー・音途切れの両方を完全に無くすることができない場合もあります。その場合には、音途切れしないことを優先する設定をお勧めします。
- 以上の調整が終了したら、大声・小声で話した場合や、双方が同時に話した場合など、実際の運用状態にて、エコーや音途切れが発生しないか確認してください。

5 付加機能

5.1 スマートフォンの音声アシスタント操作機能

スマートフォンの音声アシスタント(iPhone の Siri や Android スマートフォンの Google アシスタントなど)を起動・操作することができます。操作方法は以下の通りです。

(この機能は初期設定ではオフになっています。オンにする方法は 6.26 節を参照してください。)

- 1) 受話器を上げて「0」を入力してください。(0 に続いて#を入力するとすぐに実行されます)。
- 2) 受話器からアシスタントの起動音が聞こえますので(機種によっては聞こえない場合があります)、受話器から音声を入力してください。スマートフォンからの音声は受話器へ出力されます。
- 3) 終了したら受話器を置いて下さい。
- 4) スマートフォンやアシスタントアプリによっては、受話器を置かず「0」を再入力すると音声アシスタントを再度開始できます。

※この機能を利用するためには、スマートフォンの設定で、音声アシスタントを有効にしてください。
※音声アシスタントから電話をかける機能を使うと、そのまま通話をすることができます。通話が終わったら受話器を置いて下さい

※メディア再生・操作機能(付加機能説明書、5.4 節参照)を有効にしている場合、音声アシスタントから音楽を再生する機能を使うと、受話器から音楽が再生されます。

※上記の内容は、スマートフォンやアプリのアップデートで変わる場合があります。

※最新の対応状況やスマートフォンの設定方法などについては当方ホームページ(アドレスは本説明書最後に記載)を参照してください。本製品の取扱説明書の場所に掲載し、随時更新する予定です。

5.2 自動発信機能

受話器を上げただけ、または任意の番号入力に対して、設定した電話番号に発信することが可能です。設定方法は 6.11 節を参照してください。

動作 1) 受話器上げ自動発信

- a) 受話器を上げると、すぐに「トゥルルル…」という発信中音が聞こえます。そのまま何も番号を入力せず、設定した時間が経つと、設定した電話番号に自動的に発信します。
- b) 設定した時間内に番号を入力すると、入力した番号に発信します。

動作 2) 任意の番号入力で発信

受話器を上げて番号を入力すると、どのような番号を入力しても設定した電話番号に発信します。ただし、「8 1」～「8 5」、「1」～「5」、「9」など、本製品を設定するための番号が優先されます。これらの番号を無効にするには、パスワードを設定して下さい(3.9 節参照)。

動作 3) 上記の動作 1) a)、動作 2) の両方

5.3 短縮ダイヤル機能

受話器を上げて 0～9 の 1 桁の番号を入力すると、設定した電話番号に発信することが可能です。固定電話に短縮ダイヤル・ワンタッチダイヤルが無い場合などにご利用ください。

全部で 10 番号を設定できます。(6.12 節参照)。

6.21 節の設定で全番号を発信禁止にすると、短縮ダイヤル以外の発信は不可の設定になります。

1 桁の短縮番号は 1 桁の特殊番号と重なりますので、必要に応じて特殊番号は 2 桁に変更してください。(3.8 節参照)。

5.4 通話アプリ・音声パス切り替え機能

本製品を使用した通常の電話（070/080/090 番号）は Bluetooth の HFP（ハンズフリースプロファイル）を使用しますが、スマホの通話アプリ(*)は HFP に対応していない場合があります。以下の問題が生じます。

- ・通話アプリ着信時にスマホからも固定電話からも着信音が鳴らない
- ・スマホ本体や固定電話で通話アプリの通話ができない
- ・通話デバイスの切り替え（スマホ本体と固定電話の間）がうまくいかない

下記の設定をすると、これらを回避できる場合があります。

(*:Apple Facetime, Google Duo, Skype, LINE, Rakuten Link, SMARTalk, Viber, 03plus 等)

また、スマホ本体でも通話を行う場合には下記の設定をしないと不具合が発生する場合があります。

「通話アプリ・音声パス切り替え機能(6.27 節、初期値は 6)」の設定値と動作

iPhone		設定値 1~3 (通話アプリを使う)	設定値 6 (スマホ本体でも通話をする)
通話アプリ	着信	通常の電話と同様の動作(※1)	
	発信	スマホ本体で発信操作が必要 スマホ本体から発信音は鳴らず、固定電話に着信(※3) (※7) も可能	スマホ本体で発信操作・通話を行う 固定電話で通話するには(※7)
	通話中	切り替え(※5) (※6) 可能	切り替え(※5b) (※6) 可能
Siri		スマホ本体で音声入出力不可 固定電話にて行うには(※7)	スマホ本体で音声入出力可能
通常の電話 スマホ本体		スマホ本体で通話するには切り替え(※5) が必要な場合あり	通常の操作でスマホ本体での通話可能

Android		設定値 1 または 3 (通話アプリを使う)	設定値 6 (スマホ本体でも通話をする)
通話アプリ	着信	スマホ本体から着信音が鳴る 固定電話で通話するにはスマホ本体で着信操作が必要(※2) アプリによっては、着信操作後に(※3)	スマホ本体から着信音が鳴る。 スマホ本体で着信操作・通話を行う
	発信	スマホ本体で発信操作が必要 スマホ本体から発信音は鳴らず、固定電話に着信(※3) (※7) にて発信することも可能	スマホ本体で発信操作・通話を行う。
	通話中	切り替え(※5b) 可能な場合あり (※4 注意) 確認	切り替え(※5b) 可能な場合あり (※4 注意) 確認
Google アシスタント		スマホ本体で音声入出力不可(※3) (※7) 可能	スマホ本体で音声入出力可能
通常の電話 スマホ本体		スマホ本体で通話するには切り替え(※5) が必要な場合あり	通常の操作でスマホ本体での通話可能

注意事項：

- ・通話アプリを使う設定では、スマホ本体での通話や音声アシスタントに支障が出る場合があります。
- ・上記の説明は全てのスマホ・OS・アプリでの動作を保証するものではありません。
- ・今後のアプリ・OSアップデートに伴い、動作が変わる可能性があります。

(※1 動作)： 着信時動作(通常着信と同様動作)

固定電話に着信がある。(ナンバーディスプレイ対応電話機の場合、発信元電話番号は、発信元固有の番号が表示される場合と、非通知と表示される場合があります。)

- a) 固定電話の受話器を上げると、固定電話で通話できます。受話器を置くと、通話が終了します。
- b) スマホで通話をしたい場合、スマホで着信操作を行った後、(※5 操作)の方法で通話デバイスを切り替えてください。

(※2 動作)： 着信時動作(通話アプリ特有動作)

固定電話に着信がある。(ナンバーディスプレイ対応電話機の場合、発信元電話番号は「0000」と表示されます。)

- a) 固定電話の受話器を上げ、さらに**スマホで着信操作をすると**、固定電話で通話ができます。**受話器を置いても、通話は終了しません。**(※4 注意)参照。
- b) スマホで通話をしたい場合、スマホで着信操作を行った後、(※5 操作)の方法で通話デバイスを切り替えてください。

(※3 動作)： 発信時動作(通話アプリ特有動作)

固定電話に着信がある。(ナンバーディスプレイ対応電話機の場合、発信元電話番号は「0000」と表示されます。)

- a) 固定電話の受話器を上げると、固定電話で通話ができます。**受話器を置いても、通話は終了しない場合があります(特にAndroidスマホの場合)。**(※4 注意)参照。
- b) スマホで通話をしたい場合、(※5 操作)の方法で通話デバイスを切り替えてください。

(※4 注意)： 通話が終了しない場合

通話アプリ・スマホの種類によっては、固定電話の受話器にて通話中、**受話器を置いても通話が終了しない場合があります。**この場合、**スマホ本体での通話に切り替わり、通話は続いていますので**注意してください。通話を終了するにはスマホで通話終了の操作が必要です。

(※5 操作)： 音声パス切り替え

- a) 通話アプリによっては使用するデバイスを切り替えることができます。通話中の画面で、スピーカーやBluetoothのアイコンをタップしてください。
「スピーカー」／「イヤークラス」／「iPhone」などはスマホ本体での通話になります。
「Bluetooth」や「TTR-ADPT3」などは本製品に接続した固定電話での通話になります。
スマホ本体からBluetoothに切り替えた場合、固定電話に着信があり、受話器を上げると固定電話で通話ができます。上記(※3 動作)参照。
- b) 先に受話器を上げてからBluetoothに切り替えると、固定電話への着信を省くことができます。

(※6 操作)： 固定電話から音声パス接続

スマホ本体にて通話中、固定電話の受話器を上げて機器番号を2つ連続(「1」～「5」)を入力すると、固定電話で通話できます。(通話アプリ・スマホによっては、できない場合があります)。

(※7 操作)： 音声パス切り替えの省略方法

以下の方法で、固定電話への着信を省き、素早く固定電話で通話が開始できます。

固定電話の受話器を上げた後、通話アプリで発信・着信操作をしてください。

受話器からは、最初は「ツー」という発信音がしますが、スマホと接続されると発信音または通話に切り替わります。

5.5 その他の機能

下記の機能については、当方ホームページ(アドレスは本説明書最後に記載)の「付加機能説明書」を参照してください。

- ・メディア再生・操作機能
- ・ダイヤル入力のトーン変換機能(ダイヤル式電話機でトーン信号を送信する機能)

空白ページ

6 設定モード

本製品には各種設定があり、以下の手順で設定値の確認や変更をすることができます。
各設定値は、電源が切れても保存されます。

- 1) 設定を開始するには、受話器を上げて「0000」を入力します。(受話器を上げた時の発信音は「ツー」または「プー・プー…」のどちらでも構いません)。
- *) パスワード(3.9 節)が設定されている場合、「設定モードです。4桁の番号を入力してください」とアナウンスが流れるので、4桁のパスワードを入力してください。
- 2) 「設定モードです。3桁の機能番号を入力して下さい」とアナウンスが流れるので、以下の通り、アナウンスに従って操作して下さい。アナウンスの途中でも入力可能です。
- 3) 設定したい機能の3桁の機能番号(本章に記載)を入力して下さい。
- 4) 現在の設定値が読み上げられます。
- 5) 各機能ごとに決められた桁数の設定値(本章に記載)を入力して下さい。
または、「#」を入力すると設定値は変更せず、2)に戻ります(一部機能番号を除く)。
- 6) 設定に成功すると「設定しました」とアナウンスが流れます。
- 7) アナウンスに従い、再び2)から繰り返すか、設定が完了したら受話器を置いて下さい。
- *) 途中で設定を中断するには受話器を置いて下さい。

6.1 受話・送話音量の設定

機能番号	設定値	機能説明
111	0～9 (2)	受話音量を設定します。(0:最小, 9:最大) 最終的な受話音量は、機能番号 113 と本設定を足し合わせた設定になります。
112	0～9 (4)	送話音量を設定します。(0:最小, 9:最大) 最終的な送話音量は、機能番号 114 と本設定を足し合わせた設定になります。
113	0～9 (4)	通話時の受話音量を設定します。(0:最小, 9:最大) 通常は変更する必要はありません。
114	0～9 (4)	通話時の送話音量を設定します。(0:最小, 9:最大) 通常は変更する必要はありません。

6.2 ノイズ低減

機能番号	設定値	機能説明
321	0～9 (0)	受話音声が無音のときの微弱な雑音を減らします。 321 の設定レベルより受話音声小さい期間が 322 の設定値の期間(単位: 5 ミリ秒)
322	001～ 999 (100)	続くと、無音とみなしミュートします。 321 の設定値を大きくすると雑音が減りますが、音声途切れやすくなります。 322 の設定値が短いと通話中にミュートが切り替わり、雑音が入る場合があります。

※「設定値」欄の()内の数字は出荷時の初期値です。

6.3 エコーキャンセラ 方式（１）の設定

機能番号	設定値	機能説明
171	0, 1 (1)	メインのエコーキャンセラを有効にします。(1 で有効) パラメータはありません。

6.4 エコーキャンセラ 方式（２）の設定

機能番号	設定値	機能説明
172	0～9 (2)	方式（１）のエコーキャンセラで除去できなかったエコーを軽減します。 9 が最も大幅に低下させ、1 が最も弱く効きます。 0 を設定すると方式（２）は無効になります。
173	0～9 (4)	送信音声がい小さいと判断するレベル（しきい値）を設定します。9 が最大、0 が最小です。 大きくするとエコー除去が強くと効きますが、音声途切れやすくなります。
174	00～99 (10)	音声がい小さくなってから実際に送信レベルを低下させるまでの時間を設定します。設定単位は 25 ミリ秒です。(10 のとき 250 ミリ秒=0.25 秒)。

6.5 極性設定

機能番号	設定値	機能説明
871	0, 1 (0)	モジュラープラグの配線に極性がある電話機（一部のビジネスホンなど）において、配線の都合で極性が逆になる場合には本設定にて極性を反転させることができます。 0:極性反転しない 1:極性反転する

6.6 ナンバーディスプレイ

機能番号	設定値	機能説明
121	0～2 (2)	ナンバーディスプレイ機能の有効・無効を設定します。 接続する固定電話のナンバーディスプレイ機能の有無に合わせて設定して下さい。 0:無効 1:有効 2:自動（初回ナンバーディスプレイ着信の成否に従い、0, 1 に自動変更します。） ※黒電話専用モデルには本機能番号はありません。

6.7 ダイヤル桁間タイマ

機能番号	設定値	機能説明
123	05～99 (25)	ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定します。 ダイヤルの途中で発信してしまう場合、大きめ値を設定して下さい。 単位は 0.1 (秒) です。0.5 秒～9.9 秒の値を設定できます。
127	0, 1 (1)	下記に該当する電話番号へ発信する際、規定の桁数を入力後、すぐに発信します。発信までの時間を短縮したい場合に有効にしてください。 市外局番自動付加 (6.9 節) を設定してある場合は自動付加分も含めて判断します。 ・ 0XY (X, Y: 0 以外の数字) で始まる 10 桁の番号 (固定電話等) ・ 050, 060, 070, 080, 090 で始まる 11 桁の番号 (IP 電話・携帯電話等) 0:無効 1:有効

6.8 発着信許可

機能番号	設定値	機能説明
311	0～3 (3)	<p>発信・着信の許可・禁止を設定します。</p> <p>発信禁止にすると、全ての発信操作を無視します。</p> <p>着信禁止にすると、全ての着信を無視します。</p> <p>0: 発信禁止, 着信禁止</p> <p>1: 発信許可, 着信禁止</p> <p>2: 発信禁止, 着信許可</p> <p>3: 発信許可, 着信許可</p>

6.9 市外局番自動付加

機能番号	設定値	機能説明
131	11 桁 まで (オフ)	<p>市外局番の無い電話番号をダイヤルした際、自動的に市外局番を付けて発信します。</p> <p>電話機を設置する地域の市外局番を設定して下さい。</p> <p>「0000」を設定すると本機能はオフになります。</p> <p>発信制限 (6.22 節) は本機能の自動付加分も含めて判断します。</p>

6.10 発信番号プレフィックス

機能番号	設定値	機能説明
751	11 桁 まで (オフ)	<p>発信する際に電話番号の先頭にこの番号を付けて発信します。</p> <p>「0000」を設定すると本機能はオフになります。</p>

6.11 自動発信

機能番号	設定値	機能説明
791	0～3 (0)	<p>本機能の有効・無効の設定をします。詳細は 5.2 節を参照してください。</p> <p>0: 無効</p> <p>1: 有効 (受話器上げ自動発信)</p> <p>2: 有効 (任意の番号入力で発信)</p> <p>3: 有効 (上記 1, 2 の両方)</p>
792	0～9 (3)	<p>受話器上げ自動発信の場合の、発信するまでの時間 (秒) を設定します。</p> <p>3 未満を設定すると 3 秒に設定されます。</p>
793	21 桁まで (オフ)	<p>発信する電話番号を設定します。</p> <p>「0000」を設定すると本機能はオフになります。</p>

6.12 短縮ダイヤル

機能番号	設定値	機能説明
701, 702 ～ 709, 700	電話番号 21 桁まで	<p>701～709, 700 が短縮ダイヤルの番号「1」～「9」、「0」に対応しています。</p> <p>発信する電話番号を設定します。</p> <p>・「0000」を設定するとその短縮ダイヤルの番号はオフになります。</p> <p>・設定をキャンセルするには、受話器を置いて下さい。</p>

6.13 Bluetooth 音声パス切り替え制御

機能番号	設定値	機能説明
125	0～2 (1)	携帯電話本体で発信中または通話中に固定電話の受話器を上げた際、固定電話での通話に切り替えるための設定です。 0: 切り替えない 1: 切り替える (発信中) 2: 切り替える (発信中・通話中)

6.14 Bluetooth デバイス名の変更

機能番号	設定値	機能説明
319	00～99 (00)	Bluetooth のデバイス名を変更することができます。 設定値に 01～99 を設定すると、ペアリング・接続・切断に使用する Bluetooth のデバイス名が「TTR-ADPT3 (xx)」(xx のところに 01～99 が入ります) になります。

6.15 Bluetooth 接続受付許可

機能番号	設定値	機能説明
313	0, 1 (1)	携帯電話の操作による接続を受け付けるかどうかを設定します。 0: 受け付けない 1: 受け付ける

6.16 Bluetooth 自動接続

機能番号	設定値	機能説明
314	0～2 (1)	自動的に Bluetooth 接続する機能を設定します。 0: オフ 1: 常時自動接続 2: 受話器上げ時に接続

6.17 Bluetooth のペアリングと接続

機能番号	設定値	機能説明
338	1～5	Bluetooth のペアリングと接続を行います。 設定値 1, 2, 3, 4, 5 が機器番号「1」～「5」に対応しています。 接続動作の詳細は 3.7 節③を参照して下さい。

6.18 Bluetooth の接続

機能番号	設定値	機能説明
331	1～5	Bluetooth の接続を行います。 設定値 1, 2, 3, 4, 5 が機器番号「1」～「5」に対応しています。 ペアリングと接続の動作詳細は 2.6 節を参照して下さい。

6.19 Bluetooth の切断

機能番号	設定値	機能説明
339	1～5	Bluetooth の切断を行います。 どの設定値を入力しても現在の接続を切断します。 切断動作の詳細は 3.6 節①を参照して下さい。

6.20 Bluetooth ペアリングの解除

機能番号	設定値	機能説明
330	1～5	Bluetooth のペアリングを解除します。 設定値 1, 2, 3, 4, 5 がそれぞれ機器番号「1」から「5」に対応します。

6.21 発信制限（既定番号）

機能番号	設定値	機能説明
711	0～9 (9)	<p>特定の電話番号(無料通話)への発信を許可・禁止する機能です。</p> <p>下表において、番号 N ≤ 設定値の電話番号には発信することができ、そうでない番号には発信できません。</p> <p>例) 設定値が 2 のときは、110, 119, 118 番には発信できますが、113, 0120, 0800 番には発信できません。</p> <p>本機能で対応できない番号は 6.22 節の個別番号の設定にて許可・禁止を行ってください。</p> <p>番号 N 発信番号</p> <p>1 110(警察)</p> <p>1 119(消防)</p> <p>2 118(海上保安庁)</p> <p>3 113(故障受付)</p> <p>4 0120 で始まる電話番号(フリーダイヤル)</p> <p>5 0800 で始まる電話番号(フリーダイヤル) <u>(初期設定では上記全て許可)</u></p>
712	0～9 (2)	<p>特定の電話番号(有料通話の場合あり)への発信を許可・禁止する機能です。</p> <p>下表において、番号 N ≤ 設定値の電話番号には発信することができ、そうでない番号には発信できません。</p> <p>本機能では補いきれない場合は 6.22 節の個別番号の設定にて許可・禁止を行ってください。</p> <p>番号 N 発信番号(x は任意の番号を表します)。</p> <p>1 171(災害用伝言ダイヤル)</p> <p>2 #7119(各地救急相談センター・救急安心センター)</p> <p>2 #9110(各地警察総合相談センター)</p> <hr/> <p>3 #xxxxx (↓以下、初期設定では禁止)</p> <p>4 104(番号案内)</p> <p>5 1xx</p> <p>6 0180 で始まる電話番号(呼数集計、テレドーム)</p> <p>7 0570 で始まる電話番号(全国統一番号、ナビダイヤル)</p> <p>9 00xx で始まる電話番号</p>
713	0, 1 (1)	<p>0: 全ての電話番号への発信を禁止します。</p> <p>1: 本機能では発信制限をしません。</p> <p>例) 本機能番号を 0 に設定し、次節で発信可能な電話番号を設定すると、特定の番号(最大 10 番号)のみ発信可能になります。</p> <p>完全に全番号を禁止するには 711、712 の設定も 0 にしてください。</p>

6.22 発信制限・着信制限（個別番号）

機能番号	設定値	機能説明
721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 720	電話番号 11 桁まで (0000) に続き 000 001 002 003 (000)	<p>・発信時の電話番号の先頭部分を指定して、発信許可・禁止を指定できます。</p> <p>・着信時の電話番号の先頭部分を指定して、着信許可・禁止を指定できます。</p> <p>6.23 節も参照してください。</p> <p>最大で 10 通りの番号を設定できます。</p> <p>設定方法は以下の通りです。</p> <p>1) 設定モードで 721～720 の機能番号を入力してください。</p> <p>2) 現在の設定値の確認と「番号を入力してください」とアナウンスが流れるので、指定したい電話番号を入力してください。1～11 桁の範囲で入力できます。</p> <p>3) 「3 桁の番号を入力してください」とアナウンスが流れるので数字を入力してください。それぞれの意味は以下の通りです。</p> <p>000:発信×・着信○（○は許可、×は禁止を表します。）</p> <p>001:発信○・着信○</p> <p>002:発信×・着信×</p> <p>003:発信○・着信×</p> <p>例) 設定番号:0123, 3 桁の番号:000</p> <p>0123 で始まる電話番号に発信出来なくなります。</p> <p>・発信許可・禁止の判断順序(優先順位)は以下の通りです。</p> <p>本機能(機能番号 721→720 の順)→機能番号 711(6.21 節)→機能番号 712(6.21 節)→機能番号 713(6.21 節)</p> <p>・着信禁止には、上記設定(着信×)以外に機能番号 731(6.23 節)の設定が必要です。</p> <p>・一度設定した番号を消去するには「0000」に続き「000」を設定して下さい。</p> <p>・設定をキャンセルするには、受話器を置いて下さい。</p>

6.23 着信制限

機能番号	設定値	機能説明
731	0～3 (0)	<p>0:着信制限をしない。</p> <p>1:6.22 節の着信禁止を有効にする(未登録番号は許可、非通知は許可)</p> <p>2:6.22 節の着信禁止を有効にする(未登録番号は許可、非通知は拒否)</p> <p>3:6.22 節で着信許可した番号以外は全て拒否(未登録番号・非通知も拒否)</p>
732	0, 1 (0)	<p>上記の着信拒否の方法を設定します。</p> <p>0:回線切断(発信元には話し中と通知されます)</p> <p>1:着信を無視する(固定電話は鳴らさず、携帯電話は着信状態のまま)</p>

6.24 通話時間制限（通知音）

機能番号	設定値	機能説明
752	0000 ～ 9959 (0000)	通話時間制限に近づいたことを通知する時間を設定します。 通話開始後、設定した時間に達すると受話器から「プププ…」という通知音が鳴ります。 分(2桁)+秒(2桁)を設定して下さい（例：4分30秒の場合、0430）。1秒刻みで最大99分59秒まで設定できます。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。

6.25 通話時間制限（強制切断）

機能番号	設定値	機能説明
753	0000 ～ 9959 (0000)	通話時間制限を設定します。 通話開始後、設定した時間に達すると通話が切断されます。 分(2桁)+秒(2桁)を設定して下さい（例：4分58秒の場合、0458）。1秒刻みで最大99分59秒まで設定できます。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。 多少の誤差が生じる場合がありますので、制限したい時間よりも1,2秒短めに設定することをお勧めします。

6.26 音声アシスタント操作機能

機能番号	設定値	機能説明
392	0, 1 (0)	番号「0」入力で音声アシスタントを起動・操作する機能の有効・無効を設定します。 0:無効 1:有効

6.27 通話アプリ・音声パス切り替え機能

機能番号	設定値	機能説明
381	0～6 (6)	0:オフ(通話アプリを使用しない・携帯電話本体で電話の通話をしない) 1:通話アプリを使用する(iPhoneiOS11以前/Android用) 2:通話アプリを使用する(iPhoneiOS11以前用) 3:通話アプリを使用する(iPhone/Android用) 6:携帯電話本体でも電話の通話をする。通話アプリは使用しない。 ・最近のスマートフォンで通話アプリを使用する場合は3を設定してください。 ・携帯電話本体でも電話の通話をする場合は6を設定してください。

6.28 再起動

機能番号	設定値	機能説明
000	無し	機能番号入力後、「1」を入力してください。それ以外の場合キャンセルされます。 本製品を再起動します。 本製品の電源をオフ・オンするのと同じ動作です。 本製品の動作に何らかの異常が生じた場合に使用して下さい。 各種設定値やBluetoothのペアリング情報は消去されません。

6.29 設定初期化

機能番号	設定値	機能説明
999	無し	機能番号入力後、「1」を入力してください。それ以外の場合キャンセルされます。 本製品の各種設定値が出荷時の状態（各表の「設定値」欄の括弧内の数字）に初期化され、本製品が再起動します。 本製品の動作に何らかの異常が生じた場合に使用して下さい。 Bluetoothのペアリング情報も消去されます。
998	無し	Bluetooth ペアリング情報のみ消去します。各種設定は初期化されません。 操作方法は上記と同じです。

6.30 特殊番号

機能番号	設定値	機能説明
901	0～3 (1)	0:1, 2 のどちらも無効 1: ペアリング・接続(81)、接続(1, 2, 3, 4, 5)、切断(9) 2: ペアリング・接続(81)、接続(11, 22, 33, 44, 55)、切断(99) 3: 1, 2 の両方を有効

6.31 パスワード

機能番号	設定値	機能説明
900	0000～ 9999 (0000)	パスワードを4桁の数字で設定します。 パスワードを忘れると再設定は出来ませんのでご注意ください。 設定値が0000のときにはパスワード非設定となります。

6.32 バージョン番号

機能番号	設定値	機能説明
001	3桁	ファームウェアのバージョン番号をアナウンスします。 読み上げられる3桁の値(xyz)が、ファームウェアバージョン(x.yz)を表します。 任意の数字を一桁入力するとアナウンスを終了します。 また、本説明書の最後に記載の番号(ver. x.yz)はバージョン番号を表します。

7 仕様

電源	DC9V～12V (AC アダプタより供給)
消費電力	待機時 0.8W 最大 2.0W
本体寸法	100mm (W) × 100mm (D) × 35mm (H) 突起部含まず
本体重量	約 145g
動作環境	温度 10℃～35℃ 湿度 20%～80%RH (結露なきこと)
接続可能な内線電話数	1 回線
内線電話インタフェース	RJ-11 ジャック (6 極 2 芯) × 1 NTT アナログ回線規格に準拠 (極性反転信号対応)
適合する内線電話機の仕様	日本国内向け仕様の通話用装置 (平衡 600Ω 端末) プッシュホン電話機・ダイヤル電話機に対応 無電源タイプの電話機 (黒電話や家庭用電話機) も使用可能
ナンバーディスプレイ	対応 (黒電話専用モデルでは非対応)
FAX・データ通信 (モデム)	使用不可
DTMF 信号	使用可 ただし通話先が携帯電話・スマホの場合、通話先から DTMF 信号が送信されない場合あり (キャリア側の仕様)
Bluetooth 仕様	Ver2.1+EDR Class2 (通信距離最大 10m、実用 3m 程度)
Bluetooth 対応プロファイル	HFP 1.7.2, HSP 1.2, A2DP 1.3(*), AVRCP 1.6(*) *はメディア再生・操作機能有効時
接続可能な携帯電話数 (Bluetooth 接続)	同時接続・同時待ち受け台数: 1 台 ペアリング可能台数: 最大 5 台
電波法関連	総務省の工事設計認証取得済みモジュールを内蔵
付属品	取扱説明書 (本書) AC アダプタ (DC9V, 電気用品安全法 (PSE マーク) 対応)

8 保証

保証期間	購入後 1 年間 ただし、使用上の注意 (第 1 章) に従い使用された場合に限りです。
------	---

本製品についてのお問合せは、販売会社もしくは当方までお願い致します。

浜谷製作所

電子メール: info1@ttrmkr.sakura.ne.jp

インターネットウェブサイト: <https://ttrmkr.sakura.ne.jp/>